

**「細胞と代謝」の基盤研究を担う若手育成**  
(実施期間：平成 20～24 年度)

実施機関：慶應義塾大学（総括責任者：清家 篤）

**プロジェクトの概要**

本学においては、これまでの世界的教育研究拠点形成の実績に基づき幹細胞研究と代謝研究及び人材養成を推進してきた。本プロジェクトは、この医学・生命科学の2領域の基盤研究をより一層推進するため、優秀な若手研究者を学内外、国内外から集め、次世代のリーダーの養成を通じてテニュアトラック制の浸透を図るものである。単に過去の論文業績を評価するだけでなく、自らのもつ科学技術を中心に、横断的に「細胞と代謝」研究を発展させ、新領域を開拓することでテニュアへの道を開く。これにより、一部で導入されている教員の任期制・評価制度を全学的に定着させ、普及させていくことを目指す。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	実施期間終了後における取組	中間評価の反映
B	b	b	b	b	a	b

総合評価： B（初期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組も見られる）

(2) 評価コメント

優秀なテニュアトラック若手研究者（以下、「TT 若手」という）を厳正な審査で選考し、高い業績を上げていることは評価できるが、本プロジェクトの実施成果を当初目的とされていた抜本的な人事システム改革へつなげることが必要である。また、自機関へのテニュア付与率が低いことは厳正な審査の結果でもあるが、テニュア職を与えるというキャリアパスとしてのテニュアトラック制（以下、「TT 制」という）の制度設計を明確にし、機関内の他部局で実施されている TT 制の制度設計と実施体制に本プロジェクトの成果を活かしていくことが必要である。

- ・ **目標達成度**：「細胞と代謝」の基盤研究を推進する次世代のリーダーの養成を通じて、TT 制の導入の道筋をつけようとする構想で、学部・研究科横断的な拠点に「キャリア・ディベロップメント・センター（医学・生命科学）」を設置し、医学系の人材養成制度の改革のきっかけとなったことは評価できる。しかし、優秀な人材の採用が、必ずしも TT 制に基づく人材の養成につながっておらず、更なる人事システム改革の確立が必要である。
- ・ **国際公募・選考・業績評価**：医学・生命科学に分野を絞りつつも、既存の領域から新領域へと展開していく潜在的可能性を有する提案を集めることを目的として、多くの公募者を集め、厳正な審査で優秀な人材を獲得している。しかし、海外からの応募が少なく外国籍研究者の採用に至っておらず、また、自機関からの採用者も多い状況は、国際公募の方法の改善が必要である。

- **制度設計に基づく実施内容・実績**：TT 若手育成へのメンターの役割などに課題を残すものの、好環境を準備し、TT 若手は高い業績を残していることから育成環境を整備していることは評価できる。しかし、本プロジェクトで「テニユア付与に準じる業績」と評価された研究者のキャリアパスを明確にした TT 製の制度設計が必要である。
- **制度設計に対するマネジメント**：外部評価も含めた PDCA サイクルの活用に向けた努力が行われており、本プロジェクトの実施により、TT 製の導入のみならず、部局内の人事を機関の戦略的人事へ移行しようとする動きは評価できるが、TT 製を活かした人材養成システム改革につなげていくことが必要である。
- **実施期間終了後における取組**：本プロジェクトで実施された制度を継続して進めることが機関で決定されており、本プロジェクトの実施の効果もあって、人文社会系の学部もテニユアトラック普及・定着事業に選定され、TT 製の導入を進めていることは評価できる。今後は、本プロジェクト実施部局の人事システム改革や分野の特徴を活かした全学的な TT 製の普及・定着につながることを期待する
- **テニユアトラック制中間評価の反映**：TT 製で準備するテニユアポスト数について機関内で検討されたことは評価できる。しかし、公募のあり方については、中間評価後に公募が実施されていないため改善効果が明確でない。今後は、外国籍研究者を含む多様な人材を公募していくことが必要である。